

2019 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2019 年 12 月



ごあいさつ

2019年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は250名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。



長期プロジェクトコース 総合コーディネーター
桜沢 隆哉
京都女子大学 法学部 准教授

長期プロジェクトコースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



ビジネスコース 総合コーディネーター
多田 実
同志社大学 政策学部 教授

おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人経験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。



パブリックコース 総合コーディネーター
古川 秀夫
龍谷大学 国際学部 教授

パブリックコースでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO職員へのキャリア意識を醸成するにとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPOの存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものであります。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷	1
第2章 2019年度インターンシップ・プログラムの実施内容	2
I. プログラムの概要	2
II. 長期プロジェクトコースの実施内容	3
III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容	4
IV. プログラムを運用するにあたって	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から	8
第4章 受講生のアンケート結果から	14
第5章 今後の課題	27

<資料>

資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について	28
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移	29
資料3. 受入先登録企業・団体一覧	30
資料4. 長期プロジェクトコース講義概要	32
資料5. 長期プロジェクトコースプロジェクト別コーディネーター一覧	33
資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要	34
資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧	35
資料8. 受講生意識調査集計結果	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ5,700を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約10,000名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

インターンシップは、本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在インターンシップを実施している大学は、大幅に増加しており、インターンシップは大学生の課外活動として定着したと言える。しかし、大学生の就職活動を取り巻く環境が急激に変化している現在、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、2015年度より「インターンシップ事業企画検討委員会」を発足し検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

第2章 2019年度インターンシップ・プログラムの実施内容

I. プログラムの概要

1. コースの設定

①長期プロジェクトコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月の約5か月間で、年1回の実施である。

②ビジネスコース・パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO等）において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、8月～9月中旬の間に実働10日以上で設定され、年1回の実施である。

2. 受入企業・団体の登録

2019年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、432の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るため、案内パンフレットと「受入先ガイドブック」を活用し、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース・パブリックコースに199、長期プロジェクトコースに13、合計212の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース・パブリックコースに29、長期プロジェクトコースに2の合計31であった。

3. 学生の募集

学生募集にあたっては、本財団に加盟している大学のうち35大学41カ所のキャンパス、そして非加盟大学では要望により6大学にて、学生へ募集ガイドを配布した。同時に、16大学21ヶ所のキャンパスで開催されるインターンシップ説明会においてガイダンスを開催し、広報活動を行った。また、本財団所在地であるキャンパスプラザ京都でも説明会を実施し、学生へ教育プログラムとしてのインターンシップに参加する意義について丁寧に説明を行うとともに、修了生からの報告や個別相談会等での協力を得て、参加を呼びかけた。

●インターンシップ・プログラム事前説明会・相談会

(日 時) 4月20日(土) 18:00～21:00 (参加学生数) 185名

(会 場) キャンパスプラザ京都

(内 容) 2019年度インターンシップ・プログラム出願について

修了生(3名)による報告

修了生(14名)・事務局による個別相談会

●長期プロジェクトコース説明会・相談会

(日 時) 4月25日(木) 18:00～21:00 (参加学生数) 37名

(会 場) キャンパスプラザ京都

(内 容) 2019年度インターンシップ・プログラム出願について

受入先によるプロジェクトの紹介

修了生(2名)による報告

受入先・修了生(2名)による個別相談会

4. 出願受付と面接

本財団の加盟大学の正規学生および大学院生であれば、学部・学年を問わず出願を可能とした。また、加盟大学の学生が優先されることを出願者が了承した場合に限り、非加盟大学の学生の出願も受け付けた。

出願手続きは、Webエントリーをした者から出願票を受け付け、面接を実施する方法をとった。出願者全員に対して行う面接では、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する質問項目を設け、出願者の志望動機を確認した。

●Webエントリー期間

4月19日（金）～5月8日（水）

●出願・面接日（会場：キャンパスプラザ京都）

5月10日（金） 16:00～18:30、11日（土） 10:00～15:00

5. 選考・マッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録時点で決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討し受講許可を与えた。なお、2019年度にエントリーした受入先企業・団体212のうち、受入先による選考を選択したのは50、本財団による選考を選択したのは、162であった。

ただし、長期プロジェクトコースは、長期間のプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

6. 受講手続

受講料徴収手続きについては、2019年度も引き続き、原則コンビニエンスストアでの支払いとした。受講料は、ビジネスコース・パブリックコースで10,000円（加盟大学以外の学生は15,000円）、長期プロジェクトコースで15,000円（加盟大学以外の学生は20,000円）とし、保険料・施設利用料・その他講座運営にかかる諸費用に充てた。

II. 長期プロジェクトコースの実施内容

1. 実施プロジェクト

今年度の長期プロジェクトコースにエントリーした13団体が提供する13プロジェクトのうち、8プロジェクトが成立した。8プロジェクトの内容と受講生数は、資料5のとおりである。

2. 講義概要

(1) オリエンテーション・プロジェクトの導入

受講にあたっての注意点につき事務連絡を行い、プロジェクト記録誌を配布した。プロジェクトメンバーの相互理解とプロジェクト内容の理解を深めることを目的として、プロジェクト毎にミーティングを行い、その後、各プロジェクトでプロジェクトの概要を全体に発表した。

プロジェクト・マネジメントの基礎知識について学び、プロジェクト形成の過程で使用するワークシートの説明を受け、作成を行った。

今後の活動計画の中間発表や最終成果報告会に向け映像コンテンツの活用に重点を置いたプレゼンテーショントレーニングを実施した。また、外部講師を招き、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上を目的とした講義も行った。

(2) プロジェクトの形成

プロジェクト毎のテーマに応じた目標の設定を行い、目標に向けた体制を明確化し活動計画表を完成させた。プロジェクト形成の終盤では、全受講生合同による講義時間に活動計画の発表を行い、他者からの意見を得て、活動計画の完成度を上げる機会をもった。

(3) プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。また、夏期休暇中に、サマーセッションとして夏期休暇活動中間報告を実施し、個人の自己目標についても再確認をした。

(4) プロジェクトの振り返り

プロジェクトの評価方法について学び、プロジェクト・プレゼンテーションに向けた資料の作成と準備を行った。また、プログラムの受講を通じた自己の変化を知る自己評価の時間を設け、今後のキャリア形成に向けた振り返りの機会を設けた。

(5) プロジェクト報告・評価

最終受講日には、プロジェクト・プレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表し、プロジェクト報告書を作成した。

III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容

1. 実習受入について

今年度は、ビジネスコースで85団体に155名、パブリックコースで20団体に70名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

2. 講義概要

(1) 事前学習

実習に向けた目標と仮説設定、業界研究を通して言語化することをねらいとして、1クラス10名～15名で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生33名と受入先企業・団体のご担当者13名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

(2) ビジネススキル研修

ビジネスマナーの基本とコミュニケーション能力の向上及びロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師による研修を実施した。

(3) リスクマネジメント講習

社会で起こりうるトラブルやリスクについて学び、「報・連・相」の重要性について理解を深めることをねらいとして、事前学習の初日講義日と最終講義日の2度に分けて講習を行った。

(4) 事後学習

実習で経験したことを他者に伝え、他者が経験から学んだことを聞くことにより、事前学習で設定した目標の達成や仮設の検証を行い、その後の学習意欲の喚起につながる目標を明確化するねらいをもって実施した。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その内でクラスごとに発表し、他クラスからのコメントを元にした振り返りも行った。

他クラスの経験からも学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

IV. プログラムを運用するにあたって

1. 受入先企業・団体との連携

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、学生が実習を行っている間に、コーディネーターが受入先を訪問し、実習状況の確認を行った。長期プロジェクトコースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

●ビジネスコース・パブリックコース受入先ご担当者説明会

(日 時) 6月6日(木) 17:30~19:30

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入先ご担当者63名

(内 容) 2019年度インターンシップ・プログラムについて
受入先からの想い

三共精機株式会社 代表取締役社長 企画検討委員 石川 武

受入先ご担当者による事例報告

受入先様：株式会社フラットエージェンシー

特定非営利活動法人気候ネットワーク
京都府庁

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

●長期プロジェクトコース受入先ご担当者説明会

(日 時) 4月25日(木) 17:00~18:00

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入先ご担当者12名

(内 容) 2019年度のプログラム概要及び年間スケジュールについて

2. 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報、意見交換、情報の共有化を行った。プログラムの広報としては、大学・短期大学の希望に応じ学生対象のプログラム説明を行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

3. インターンシップ事業企画検討委員会におけるプログラムの検討

プログラムの開始から10年目を迎えるにあたり各種委員会として立ち上げられた「インターンシップ研究会」は、長期的な教育プログラムの方向性について組織的に検討する機関として機能していたが、議題が多岐に渡るため、近年コーディネーター会議との位置づけが不明確になってきた。そこで、本来の目的に沿った機能が発揮できるよう、2015年度より、「インターンシップ事業企画検討委員会」と名称を改め、その役割を整理した。なお、インターンシップ研究会で担っていた教務に関する事項については、各コースのコーディネーター会議で審議することとしている。

2019年度も引き続き、専門委員会としてプログラムに関する検討、審議を行った。

<教育プログラムとしての質的向上に向けた課題>

- 2019年度受入先開拓の方針と学生への広報について
- 加盟校のインターンシップ出願・広報・実施状況について
- 新規プログラムの検討について

<プログラムの特色を検証し広報する取り組み>

- 「VS 社会人」修了生フォローアップ企画の実施

2019年度 企画検討委員会実施日程

- 第1回 2019年 6月 21日(金)
- 第2回 2019年 10月 18日(金)
- 第3回 2019年 11月 29日(金)
- 第4回 2020年 2月 21日(金) 予定

インターンシップ事業企画検討委員会構成員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 准教授
	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	松村 千鶴	京都府立大学 教養教育センター 特任教授
	谷口 知弘	福知山公立大学 地域経営学部 教授
	辻野皓一朗	大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部キャリアセンター
	安本祐一郎	京都先端科学大学 キャリアサポートセンター
	竹中 好恵	京都産業大学 キャリア教育センター
	折田 美和	立命館大学 共通教育課
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	石川 武	三共精機株式会社 代表取締役社長

4. リスクマネジメント

(1) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。2019年度は、保険金請求事例が2件発生した。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500万円／入院保険金日額4,500円／通院保険金日額3,000円

【賠償責任保険】 てん補限度額1億円（自己負担額 0円）

(2) リスクマネジメント講習

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、事前学習にてリスクマネジメント講習を設定し、想定される事例のケーススタディを行った。また、長期プロジェクトコースにおいては、初日のオリエンテーションにおいて、「報告・連絡・相談」の重要性とともに、プログラム中に起これうるリスクへの対応を受講生に伝えた。

(3) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターナンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

参考：インターンシップ・プログラム 写真

1. インターンシップ説明会



2. ビジネスコース・パブリックコース講義

(左：事前学習オリエンテーション、中：ゼミの様子、右：マナー研修)



3. 長期プロジェクトコース講義 (左、中：講義の様子、右：実習先でのプロジェクト打ち合わせ)



4. ビジネス・パブリックコース受入先での実習

(左：嵯峨野観光鉄道株式会社 中：亀岡市役所 右：京都タワー(京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社))



第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると94.3%であった。また、次年度の受入れ予定については、65.7%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I.アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース 2019年9月下旬(実習終了後)

長期プロジェクトコース 2019年11月初旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	85	76	89.4%
パブリックコース	20	20	100.0%
長期プロジェクトコース	8	9	112.5%
総計	113	105	92.9%

※京都府教育委員会は受入校単位回答

大学コンソーシアム京都は回答なし

II.アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①満足している	67	88.2%	18	90.0%
②どちらでもない	7	9.2%	1	5.0%
③不満がある	1	1.3%	0	0.0%
無回答	1	1.3%	1	5.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

【①の理由】

積極的に仕事に取り組んだ

どのような学生でも受け入れるつもりでしたが、前向きな学生でこちらもやりがいがあった

幅広い機会を用意したので、そのなかで役に立ったようです。

設定した取り組みをほぼ出来たから

文系でPG未経験ではあったが、IT業界に興味をもち、前向きかつ真摯に実習に取り組んでくださったため

観光にも出版にも興味のある学生さんに来ていただいたので

スポーツ健康科学専攻の学生ということでスムーズに進行できました

慣れない環境の中で頑張って取り組んでいたので

【②③の理由】

当社には優秀すぎる印象を受けました。

【無回答の理由】

やむを得ない部分もあるため、不満とは言いませんが、①②と答えられるものではありませんでした。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。(長期プロジェクトは複数回答可)

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	36	47.4%	7	35.0%	4	44.4%
②社員の補助的な業務の一部を体験	24	31.6%	10	50.0%	5	55.6%
③社員の通常業務以外の業務	4	5.3%	0	0.0%	3	33.3%
④見学を中心実施	2	2.6%	1	5.0%	3	33.3%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	6	7.9%	0	0.0%	3	33.3%
⑥その他	4	5.3%	2	10.0%	2	22.2%
総計	76	100.0%	20	100.0%		

【⑥その他の記述欄】

社会人としての心構え
 近畿地区国立大学体育大会ソフトテニス競技の公式戦運営
 営業マンのアテンド経験
 SE,PGの体験プログラム
 パデルを体験し、知ることを基本にしました
 アイデアの構築と発表
 取材をしに現場に行き、市の広報紙作成に携わってもらいました。
 補助業務を超えて、一部、「この部分は任せる」とした部分もあった
 授業の補助、クラスの事務作業、行事への参加
 展示会出展

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	60	78.9%	19	95.0%	7	77.8%
1円～4,999円	6	7.9%	1	5.0%	1	11.1%
5,000円～9,999円	3	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
10,000円～19,999円	5	6.6%	0	0.0%	0	0.0%
20,000円以上	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%
無回答	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%	9	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	49	64.5%	15	75.0%	5	55.6%
②受入れない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	26	34.2%	5	25.0%	4	44.4%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%	9	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	67	88.2%	16	84.2%	9	100.0%
②ふつう	9	11.8%	2	10.5%	0	0.0%
③真剣さを感じられなかつた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%
総計	76	100.0%	19	100.0%	9	100.0%

【無回答の理由】

こちらの印象としては③ですが、学生自身としては、学生なりに真剣に取り組もうとしていたのではと思われます。

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	69	90.8%	16	80.0%	8	88.9%
②どちらともいえない	7	9.2%	2	10.0%	1	11.1%
③成長があつたと思えない	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%	9	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	27	35.5%	8	40.0%	2	22.2%
②自主性・独創性の育成	26	34.2%	6	30.0%	4	44.4%
③キャリア形成	12	15.8%	2	10.0%	0	0.0%
④問題解決能力の向上	12	15.8%	4	20.0%	1	11.1%
⑤多様な価値観の認識	36	47.4%	8	40.0%	2	22.2%
⑥コミュニケーション能力の向上	35	46.1%	11	55.0%	5	55.6%
⑦プレゼンテーション能力の向上	18	23.7%	3	15.0%	1	11.1%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	16	21.1%	6	30.0%	2	22.2%
⑨その他	4	5.3%	1	5.0%	0	0.0%

【⑨他の記述欄】

皆が何を大切にして仕事をしているかをしっかり感じてくれた

大学事務職についての理解が深まった

パデルの技術向上。大学生、社会人、地域の方との練習や指導を通して、何らかの気づきがあったように思う

まちづくりの現状についての理解

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との強化	6	7.9%	0	0.0%
②指導することにより社員の育成になるから	22	28.9%	2	10.0%
③学生への自社PRのため	5	6.6%	3	15.0%
④採用活動につなげたいから	7	9.2%	4	20.0%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	8	10.5%	1	5.0%
⑥社会貢献	24	31.6%	8	40.0%
⑦その他	3	3.9%	2	10.0%
無回答	1	1.3%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

【⑦他の記述欄】

コンソーシアムの教育理念に共感を持っているから

学生から自社に対するアイディアを得るため

パデル普及活動の一環として

若い世代の感覚、価値観を知るため

学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化につながるため

青少年の育成支援をする団体として、多様な学びの機会を提供することに意味があると考えるから

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	6	7.9%	0	0.0%
②職場活性化	18	23.7%	7	35.0%
③指導する社員の成長	16	21.1%	3	15.0%
④自社のPR・広報・宣伝	2	2.6%	3	15.0%
⑤優秀な学生との出会い	13	17.1%	3	15.0%
⑥新たな企画開発	3	3.9%	0	0.0%
⑦社会貢献	14	18.4%	3	15.0%
⑧その他	2	2.6%	1	5.0%
無回答	2	2.6%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

【⑧他の記述欄】

一緒にプレーするパデル京都の会員さん方とのコミュニケーション、会話など、教育、研修施設の役割を担いたい
という思いを会員さんに認識してもらえる
まちづくり会社なので、職場周辺地域活性

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	47	61.8%	13	65.0%
②事前の準備に時間・コストがかかる	7	9.2%	4	20.0%
③安全への配慮に手間がかかる	3	3.9%	1	5.0%
④情報漏えいが不安である	6	7.9%	1	5.0%
⑤その他	12	15.8%	0	0.0%
無回答	1	1.3%	1	5.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

【⑤他の記述欄】

社員の業務進歩に影響が出る
正直、無償でやるには限界があります
花屋という特殊な仕事内容ですので、一つ一つ必ずスタッフが1名ついて指導しないといけない点が厳しい
忙しすぎる場合、しっかりと対応ができず、せっかく来てもらっているのに、申し訳ないときがある
あえてデメリットをあげると、作成すべき書類、目を通すべき書類が多い場合、手間が大きいと感じます
事務手続きに要する時間
今のところデメリットはありません。実習生と関わる時間は充分ありますので

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	21	27.6%	12	60.0%
②ない	30	39.5%	5	25.0%
③新卒採用を行っていない	9	11.8%	1	5.0%
④わからない	13	17.1%	2	10.0%
無回答	3	3.9%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	11	57.9%	11	84.6%
②ない	3	15.8%	1	7.7%
③採用には至らなかったが応募していた	5	26.3%	1	7.7%
総計	19	100.0%	13	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①はい	47	61.8%	18	90.0%
②いいえ	23	30.3%	2	10.0%
無回答	6	7.9%	0	0.0%
総計	76	100.0%	20	100.0%

●2019年度のインターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	34	44.7%	8	40.0%	0	0.0%
②かなり満足	30	39.5%	9	45.0%	4	44.4%
③やや満足	9	11.8%	2	10.0%	3	33.3%
④やや不満	1	1.3%	1	5.0%	1	11.1%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	2.6%	0	0.0%	1	11.1%
総計	76	100.0%	20	100.0%	9	100.0%

III.ご意見・ご要望について(自由記述欄より抜粋)

本項目については、基本的に原文のまま掲載する。

ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《ビジネス・パブリックコース満足度の理由について》

運輸・物流	社員、学生双方にとって様々な気づきが得られた貴重な経験となりました
エンタテイメント	体調不良による欠勤が続く方がいて、他実習生との取組に不安があった
その他	2週間という短い期間では指導しきれないところがある
ソフトウェア・通信	今回1名の参加でしたので、もっと参加くださるとありがとうございました。学生さんのマナーがしっかりしている点などが良かったと思います
マスコミ・広告・印刷・出版	今回はいつもより多い人数の受入だったため、フォローが行き届いていたか少し心配でしたが、学生さんが積極的に取り組んでくださったため
マスコミ・広告・印刷・出版	インターンシップ受入れの社内的な成果を今後検証する予定です
医療・福祉	10日間という少し長い期間、インターンシップに参加してくれたため、施設の良いところも悪いところも見えてもらえたと思います
医療・福祉	今回は学生の体調不良もあり、途中で終わったため
運輸・物流	事前の企業研究の徹底や基本的なマナーについて、しっかりと身に付けており、受け入れる側もいい刺激となった
教育(学校・大学等)	重要だが緊急度が低い業務について、取り組むことができる。また、中堅職員のマネジメント研修として効果がある
教育(学校・大学等)	受入れる側としても、学生ならではの視点、発送、考え方を学び、再認識できる良い機会となったから
教育(学校・大学等)	大学コンソーシアム京都と学生とのつながり、意義がわかり始めたためです。「受入先担当者説明会」に参加し、他の組織の担当者と話しができたことは良かったです
教育(学校・大学等)	実習生の受入にあたっては、本学の事務局全体で対応することとしたため、各部署でメニューを考えなければならず、良い刺激となった
教育(学校・大学等)	今年度のインターン実習生のなかに、最低限のコミュニケーションや、常識的な素養欠けていると思われる者がおり、実習部署の関係者に大きな負担を負わせるとともに、当該部署の通常業務自体にも支障を及ぼすこととなつたため
金融・証券・保険	実習生が弊社を知る良い機会になったと思われるため
金融・証券・保険	事前学習をしっかりとなされているという印象を学生から感じられました もう少し、学生自身が主体的に参加する姿勢を出して頂ければ、なお良かったと思います
宿泊・レストラン・フードサービス	指導した社員を含め、学生の方を受け入れることで責任感の向上などの効果がみられたから
宿泊・レストラン・フードサービス	業界研究をもう少ししておいてほしい
商社・卸売	事前準備など時間がかかりますが、それ以上に社員の得られるものが大きいので、毎年勉強させていただいている
商社・卸売	テーマについての取組、レポートを完成させることで学生の学習に当社として寄与することができたまた、社員にとっても成長の機会となった
商社・卸売	学生には満足しているが、当社としてのメリットを見出せていないため
小売・販売・専門店	研修や他大学の学生との交流で成長を感じられた
小売・販売・専門店	優秀な学生に来ていただきました。実習期間がもう少し短いと受入しやすく有難いです
小売・販売・専門店	少し準備不足、時間不足

製造(その他)	初めて受け入れたが、大変優秀な学生に来ていただけた。多様な大学との接点ができそう。
製造(食品)	期間もほど良い長さで、生徒も積極的だった
製造(電気機械設備)	実習に対して真面目に取り組んでいただいたので
製造(電気機械設備)	最近の傾向で受身的な学生が多く、何のためのインターンシップなのか目的意識が分かりにくく、こちらもどう対応すべきか分からず
不動産・建築設計	10日間どんな感じか不安はありました、社内スタッフも学生さんにも良い刺激となり、社内が明るくなりました
不動産・建築設計	学生側が満足されているかが不足です
不動産・建築設計	期間が短い、業務内容を教えるには、20日～30日は必要
不動産・建築設計	受入側のスケジュールの問題もあるが、概ね満足
不動産・建築設計	全体像がよくわからない

《ビジネス・パブリックコースプログラムの改善点》

エンタテイメント	企業側のプログラムを発表だけでなく、資料としてまとめていただけると参考となり、ありがたい
教育(学校・大学等)	実習期間が教育機関であるため本来の業務をみてもらえないこと
教育(学校・大学等)	日誌、コメント、報告書、アンケート、提出物が多いです。
宿泊・レストラン・フードサービス	受入側としては、受入先企業への派遣の適不適や、個人の特性を事前に把握するためのスクリーニングをこれまで以上に適切に実施していただくことを希望いたします。また、そのような学生を派遣することとなる場合は、受入先に事前にご相談いただけるような仕組みをご検討いただきたく存じます。加えて、インターンシップが、実習生の今後の就職活動に資するための貴重な体験の場であるという趣旨に顧み、本人が今後の就職活動において不利益を被らないよう、フィードバックやアフターケアの仕組みについてもご検討いただければと思います
小売・販売・専門店	事前学習情報などいただければありがたい
小売・販売・専門店	実習期間の見直し
人材ビジネス	学生の更なる成長につながるよう弊社プログラムの改善を行っていきたい
製造(電気機械設備)	事前面接をもう少ししっかりして頂き、学生のレベル感を一定にしてほしい
製造(電気機械設備)	事前訪問で来社されてもお話しする内容は電話やメールで対応できるものなので、事前訪問は希望制にしていただけるとありがたい
その他	インターンシップで何を学ぶのかもっと考えさせてほしい

《長期プロジェクトコース 意見・ご要望》

学生の数がもう少し増えればいいと思います。

こちら側の問題ではありますが、学生達がもっと日程に余裕を持っていると思っていた中で、バイトやサークルなどの課外活動で4人揃っての時間がほとんど取れないという状況になり、イベントの内容も状況に合わせた形に変更しました。弊社のように対面重視型かつ事業内容や価値などを丁寧に伝えないといけない場合、コアタイムのようにがつづり日程を確保できる日がいくつか無いと、今回インターンで伝えたかったこともどこまで伝わっているのか少し懸念が残ります。

実習中、事務局と当社で受入学生の情報交換や関わりがあると、学生の悩みや課題を明確にしやすい。定期報告会を会社でできると助かります。

実はもっと充実したコンテンツを予定していたが、スケジュールの都合上、全て実施できなかった

学生の皆さんには真剣にプロジェクトに取り組んで頂き、進めようとしていたアイディアを具体化する事ができた

プログラム自体には満足ですが、自分がもっと時間を作つて協力できればよかったです。他の仕事等もあり、完ぺきではなかった

長期プログラムには非常に魅力を感じておりますが、難点とすれば、今の学生は「夏休みも忙しい」という点です。夏休み期間中も全員揃う日が数日しかなく、来年はそのあたりも念頭に入れて、インターンシップ内容を検討したいと思います。

講義もしっかりと行われており、教育型のインターンシップであることが理解できました。昨今あるような、1dayのインターンシップとは異なり、学生にとっても有意義なものになったと思います。

予想より業務が忙しくなり、9月頃からコーディネーターの先生にプロジェクト全体をかなりサポートして頂き大変助かりました。

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の84%であった。また、成長感については、90%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長感にもつながり、体験以外の研修や講義の部分を含んでも、アクティブ・ラーニングによる効果を実感する受講生の意見が多く出された。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース	2019年9月21日(事後学習日)
長期プロジェクトコース	2019年11月9日(最終講義日)

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	150
パブリックコース	68
長期プロジェクトコース	18
総計	236

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大変満足	84	56.0%	43	63.2%
②満足	59	39.3%	25	36.8%
③どちらでもない	5	3.3%	0	0.0%
④不満	1	0.7%	0	0.0%
⑤とても不満	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。(複数回答可)

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	53	35.3%	20	29.4%
②社員の補助的な業務の一部を体験	36	24.0%	28	41.2%
③社員の通常業務以外の業務	16	10.7%	6	8.8%
④見学を中心に実施	22	14.7%	4	5.9%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	11	7.3%	4	5.9%
⑥その他	11	7.3%	5	7.4%
無回答	1	0.7%	1	1.5%
総計	150	100.0%	68	100.0%

【その他の記述内容】

スタッフの一員として参加者の引率を担当

企画立案メイン

社員の補助的な業務、通常以外の業務、見学を中心の業務

最終日の成果発表物づくりを中心に実習

インターン用のプログラム、新規事業の取組

コンサルティング

店舗の働く社員やアルバイトの方が行う幅広い業務

出張同行

社会経験

会議の参加

業務勉強

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
10日未満	12	8.0%	6	8.8%
10日	118	78.7%	36	52.9%
11~15日	17	11.3%	24	35.3%
16~29日	3	2.0%	2	2.9%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	無回答
10日未満	0	3	15	0	0	0
10日	0	41	94	16	2	1
11~15日	1	11	26	2	1	0
16~29日	1	2	2	0	0	0
30日以上	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0
総計	2	57	137	18	3	1

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があつたと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があつたと感じる	131	87.3%	66	97.1%	15	83.3%
②どちらともいえない	18	12.0%	2	2.9%	2	11.1%
③成長があつたと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	0	0.0%	1	5.6%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●前問で「成長があつたと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	58	38.7%	24	35.3%	2	11.1%
②自主性・独創性の育成	44	29.3%	19	27.9%	3	16.7%
③キャリア形成	23	15.3%	14	20.6%	2	11.1%
④問題解決能力の向上	32	21.3%	12	17.6%	7	38.9%
⑤多様な価値観の認識	57	38.0%	33	48.5%	6	33.3%
⑥コミュニケーション能力の向上	61	40.7%	30	44.1%	8	44.4%
⑦プレゼンテーション能力の向上	29	19.3%	7	10.3%	4	22.2%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	30	20.0%	24	35.3%	4	22.2%
⑨その他	5	3.3%	3	4.4%	3	16.7%

【他の記述内容】

即興力

積極性の向上

強みや弱みの発見

私自身が今後取り組むべき課題が発見できた

視野の広がり

自分らしさに気づけた

業界研究

業界のことを学べた、それに基づいて行動できた

同志社大学の建学の精神を核とした他大学とは異なる価値観を知り、夢がより現実味を帯びた

映像の編集

自分の能力の正しい把握

責任力、人に頼ることと頼りすぎないこと

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	27	18.0%	27	39.7%	3	16.7%
②やや就職したい	79	52.7%	31	45.6%	12	66.7%
③あまり就職したくない	30	20.0%	6	8.8%	2	11.1%
④就職したくない	12	8.0%	4	5.9%	1	5.6%
無回答	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	31	20.7%	35	51.5%	3	16.7%
②やや就職したい	87	58.0%	24	35.3%	9	50.0%
③あまり就職したくない	24	16.0%	7	10.3%	6	33.3%
④就職したくない	7	4.7%	2	2.9%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したいと強く思うようになった	83	55.3%	29	42.6%	7	38.9%
②就職したいと少し思うようになった	40	26.7%	27	39.7%	5	27.8%
③それほど変化はなかった	21	14.0%	11	16.2%	5	27.8%
④就職したくないと少し思うようになった	4	2.7%	1	1.5%	1	5.6%
⑤就職したくないと強く思うようになった	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなつた	108	72.0%	56	82.4%	8	44.4%
②変わらない	38	25.3%	12	17.6%	8	44.4%
③悪くなつた	1	0.7%	0	0.0%	1	5.6%
無回答	3	2.0%	0	0.0%	1	5.6%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●インターンシップ実習で何を得られましたか。

1)働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.7%	1	1.5%	0	0.0%
②あまり思わない	5	3.3%	0	0.0%	5	27.8%
③どちらでもない	12	8.0%	8	11.8%	3	16.7%
④思う	72	48.0%	19	27.9%	7	38.9%
⑤とてもそう思う	60	40.0%	39	57.4%	3	16.7%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

2)受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.7%	1	1.5%	0	0.0%
②あまり思わない	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
③どちらでもない	2	1.3%	0	0.0%	1	5.6%
④思う	40	26.7%	24	35.3%	10	55.6%
⑤とてもそう思う	106	70.7%	42	61.8%	7	38.9%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

3)自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	1.3%	0	0.0%	1	5.6%
②あまり思わない	5	3.3%	3	4.4%	1	5.6%
③どちらでもない	31	20.7%	12	17.6%	5	27.8%
④思う	87	58.0%	32	47.1%	8	44.4%
⑤とてもそう思う	25	16.7%	19	27.9%	3	16.7%
無回答	0	0.0%	2	2.9%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

4)自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	2.7%	1	1.5%	0	0.0%
②あまり思わない	9	6.0%	2	2.9%	0	0.0%
③どちらでもない	32	21.3%	15	22.1%	4	22.2%
④思う	74	49.3%	30	44.1%	10	55.6%
⑤とてもそう思う	31	20.7%	19	27.9%	4	22.2%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

5)自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	2.0%	1	1.5%	0	0.0%
②あまり思わない	8	5.3%	7	10.3%	1	5.6%
③どちらでもない	34	22.7%	13	19.1%	3	16.7%
④思う	60	40.0%	30	44.1%	8	44.4%
⑤とてもそう思う	45	30.0%	16	23.5%	6	33.3%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	1.3%	1	1.5%	1	5.6%
②あまり思わない	10	6.7%	1	1.5%	1	5.6%
③どちらでもない	41	27.3%	20	29.4%	5	27.8%
④思う	65	43.3%	27	39.7%	9	50.0%
⑤とてもそう思う	31	20.7%	18	26.5%	2	11.1%
無回答	1	0.7%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	2.7%	1	1.5%	1	5.6%
②あまり思わない	23	15.3%	8	11.8%	3	16.7%
③どちらでもない	46	30.7%	24	35.3%	7	38.9%
④思う	60	40.0%	25	36.8%	7	38.9%
⑤とてもそう思う	17	11.3%	9	13.2%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	9	6.0%	4	5.9%	0	0.0%
②あまり思わない	14	9.3%	6	8.8%	2	11.1%
③どちらでもない	17	11.3%	14	20.6%	2	11.1%
④思う	71	47.3%	25	36.8%	10	55.6%
⑤とてもそう思う	39	26.0%	18	26.5%	4	22.2%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナー・話し方

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	24	16.0%	12	17.6%	2	11.1%
②やや不安だ	68	45.3%	33	48.5%	4	22.2%
③どちらでもない	27	18.0%	8	11.8%	5	27.8%
④あまり不安ではない	25	16.7%	12	17.6%	7	38.9%
⑤不安でない	6	4.0%	2	2.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

2)職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	17	11.3%	11	16.2%	1	5.6%
②やや不安だ	45	30.0%	29	42.6%	6	33.3%
③どちらでもない	37	24.7%	9	13.2%	4	22.2%
④あまり不安ではない	35	23.3%	11	16.2%	7	38.9%
⑤不安でない	15	10.0%	7	10.3%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

3)スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	30	20.0%	13	19.1%	2	11.1%
②やや不安だ	65	43.3%	27	39.7%	9	50.0%
③どちらでもない	32	21.3%	14	20.6%	5	27.8%
④あまり不安ではない	16	10.7%	11	16.2%	2	11.1%
⑤不安でない	7	4.7%	2	2.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

4)体調管理

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	11	7.3%	12	17.6%	2	11.1%
②やや不安だ	25	16.7%	13	19.1%	7	38.9%
③どちらでもない	29	19.3%	12	17.6%	3	16.7%
④あまり不安ではない	40	26.7%	19	27.9%	5	27.8%
⑤不安でない	45	30.0%	10	14.7%	1	5.6%
無回答	0	0.0%	2	2.9%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	3	2.0%	0	0.0%	1	5.6%
③どちらでもない	22	14.7%	3	4.4%	2	11.1%
④やや満足	71	47.3%	35	51.5%	10	55.6%
⑤非常に満足	51	34.0%	27	39.7%	5	27.8%
無回答	3	2.0%	3	4.4%	0	0.0%
総計	150	100.0%	68	100.0%	18	100.0%

III. ビジネスコース・パブリックコース「実習経験交流会」について(学生アンケート自由記述欄より)

●発表を聞いての感想

- ・ゼミでも様々な業種の共有ができましたが、交流会ではさらに幅広いイメージを持つことができ、とても充実した日々だったなと思います
- ・意識の高さに驚いた
- ・実習に行かせていただいた場所はそれぞれ違いますが、皆さんの発表を見ていて、私自身も実際に感じた社会人についてとコミュニケーション能力の大切さ
- ・いろいろな発表があって、学びになりました 感想を書く上で、人としてモラルを守るべきだと思いました
- ・失敗した人が赤裸々に語っている姿を見て、心を打たれました。前向きな皆様の姿勢に刺激を受けた
- ・自分に足りないものや逆に十分な部分がわかった
- ・ゼミ全体で決めて行っていることが多くあったように思えたので、私たちもすればよかったです
- ・それぞれの実習先で学んだことにも共通点があり、社会人として必要なことだとわかった
- ・それぞれの職業によって求められる素質は大きく異なることを実感した
- ・他クラスのアイデアが素晴らしかったです 特にニュース形式にしたクラスはわかりやすく楽しい発表でした
- ・他業種の話を聞くことで、自分が目指している方向性は間違っていないと再認識できた
- ・ビジネスコースもパブリックコースも働くうえで大切なことは同じだなと思いました
- ・短い準備時間だったので、自他クラス含め期待はしていなかったのですが、先生の方の指導もあり、きちんとした内容で、学んだ事、気付いた事が分かり、価値ある時間だったと思いました
- ・みんなインターンシップ先でたくさんのが学べたのだなと思いました やはり、顔つきが全然違ったので、経験ってすごいなと改めて感じました 私も皆さんに負けずにこれから頑張りたいと思います

●発表時間及び準備について

- ・発表時間はちょうど良かったです 準備時間は少ないかと思いましたが、1日で完成度の高いものができたと思っています
- ・発表時間は、ゼミクラスの人数に対して少ない 準備時間は十分だった
- ・タイムキーパーはいるのか、なぞだった
- ・2コマほどの準備時間が欲しかった
- ・時間をどんどん短くしていくのはよくない
- ・結構長いなと思いましたが、必要な時間だということも認識しています
- ・当日、直前だけの準備だったが、まとめることはできたので、あえて短い時間で集中して準備するのも悪くないなと思った
- ・今回、学生が時間オーバーしているように感じました 学生が時間内で発表するように促すことはできたのではないでしょうか。取捨選択も社会人で必要だと思います

また、パワポと紙の発表に差があるように感じました パワポを使ったら、発表のレベルが高くなってしまうのは、当然だと思います 発表の仕方を統一したほうがその中で何ができるのかを学べると思います

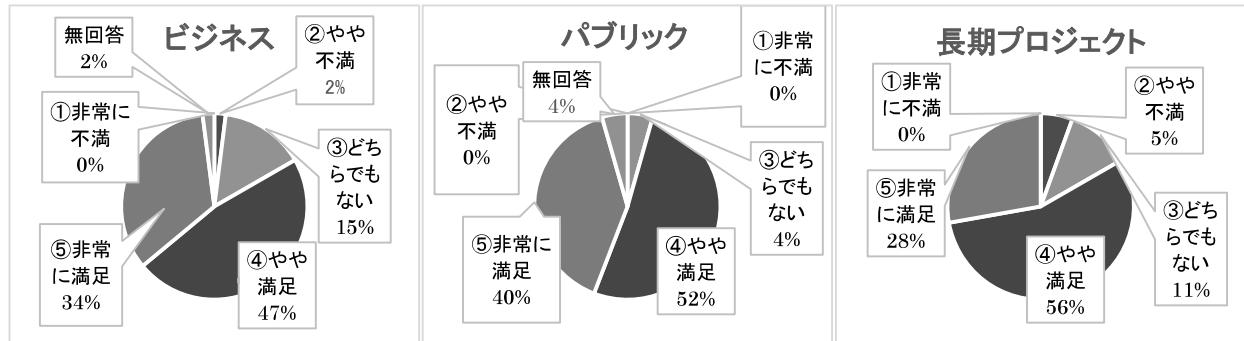
- ・前週の補講日は設けていなかったため、当日のみでプレゼン内容を考えた。当日だけでも問題はないが、もっと深く濃い内容の発表ができれば良かった
- ・振り返りの時間が短い
- ・短時間だったのでより時間を有効活用できたらよかった
- ・準備時間が限られていたため、時間が正直足りなかつたが、限られた時間の中で仕上げる力も必要だと感じた

● その他の意見

- ・私のゼミクラスは先生や他大学の学生を含め、自分の意見を頑張って出そうと思える空気を作ってくれたり、とても楽しかったのですが、他のゼミクラスの話を聞くと、そうではないゼミクラスもあり、ゼミによって差がありすぎるのは良くないと思いました
- ・あまりにも批判的で幼稚なコメントが1つだけあったので、少し残念でした
- ・他のクラスの発表も見てみたい
- ・感想をポストイットでまとめるのは良いと思いました
- ・無駄な時間が多
- ・私自身はあまり関わられなかつたのが悔やまれる
- ・もう少し考える時間もあるべき
- ・どの職業についても、裏方の仕事について知れて良かったです
- ・企業側の方のフィードバックをいただいて、為になりました
- ・他のクラスから発表の感想をもらえたのは良かった
- ・何か発表にテーマを与え、クラス毎に競わせる方が面白かったのではないかと思います
- ・クラスのまとめを突然先生にふられたが、それに対応できたので、インターンでの成長を感じた
- ・教授が生徒の意見に対して怒るのは良くないのでは・・こちら側に非があるとはいえ、教授としてのやり方は違うと思った
- ・コーディネーターによってバラバラな発表方法には賛否がありそうです 個人的にはバラエティに富んでいて楽しかったです
- ・フィードバックするだけでなく、それを共有できてよかったです
- ・事前に段取り（タイムスケジュール）を知らせていただけるとありがたかったです
- ・交流会の優秀賞の導入
- ・自分の実習先の方がきて下さると照れます、やはり嬉しいです。久しぶりにお会いできてお話しできました
- ・発表できる道具がもう少しあるといいと思いました

IV. 意見・感想について

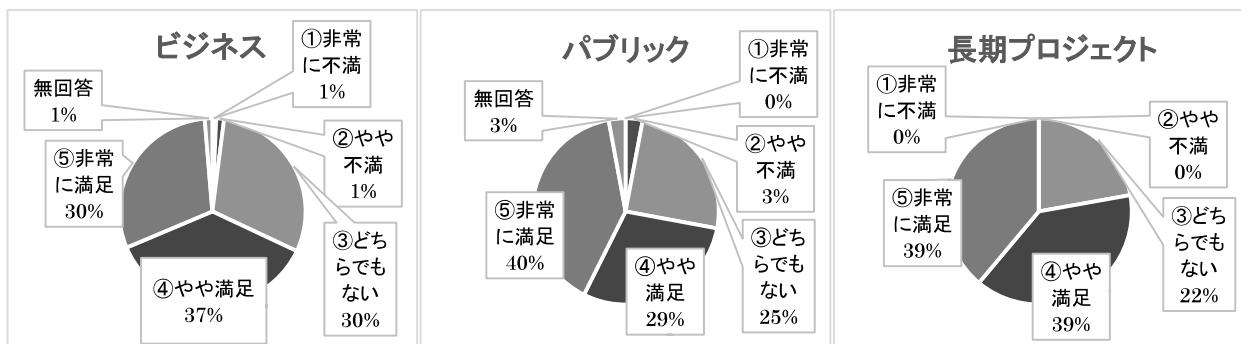
●全体を通して



- ・全体的に事前と事後、全員で集まるときに時間が少し長いなと思いました。でも、先生やゼミのクラスの人たちに会って、いろいろな話ができる、うれしかったです
- ・事前学習、事後学習を通して、インターンを受けっぱなしにせず、学生の成長につなげるための学びや発表の場を設けてあるところがいいと思いました
- ・事前の学習が面倒に感じることもありましたが、終えてみて良い経験だったかなと思います 費用も5,000円ぐらいだと、もっと人が応募するのではないかと思いました
- ・最初は不安だったが、他大学の方と意見を交換し、実際に就業体験ができ、自信につながった
- ・とても成長できました。2回生でしたが、今のうちから参加して本当に良かったです
- ・マナー講座やロジカルシンキングなど社会に出るうえで必要なことを勉強したうえでインターンシップ実習にかかるのは良い流れだと思いました
- ・会社員としてより働く一人の大人として学べた。このプログラムに参加できて幸せでした
- ・振り返り過ぎ。みんな同じこと、何度も述べている
- ・意識高い班であったため、自分自身もレベルの高いレポートや報告ができるように思う
- ・専門的基礎的な知識の両方を学べることができ、非常に有意義であった
- ・業界企業への理解が深まり、自身のスキルアップにつながる良い機会となった
- ・その職場についてからの経験や日々がものを言うと思うので、13日間という期間では学ぶこと、学んだことを活かすには限界があったので、もっと働きたいと思えました
- ・正直、期待していたよりも大幅に楽しく、大学職員について多くのことを理解することができた
- ・マナー講習をやっていただき、なかなか気づきにくい部分に注意できるようになったと共に、実習先のこともよく知れました
- ・とても満足のいくインターンシップであったが、応募する際はいまいち内容がわからず、不安になった。事後レポート等など、どのような内容なのかわかると良いと思う
- ・クラスは、他校の方や他学年の人と交流できて、良い刺激を受けた このインターンシップがなければ出会うことできなかつたステキな出会いに感謝です 実習もとっても充実したもので、受入先の方にも感謝しています
- ・就活がうまくいかず不安だったので、このインターンシップに参加しました。少しですが、不安がなくなったので、参加して本当に良かったです

- ・就職に向けて良い刺激になったと感じました 学内のガイダンスを聞くより、実際に体験する方が実感できました
- ・私は事前学習の時間が長いと思いました
- ・自身のインターンシップ以外にも他の人との意見交換やマナー講座など盛り沢山の経験が詰めて、夏休みを犠牲にしたかいがあったと思いました
- ・レポート提出の方法以外は、非常に満足する内容でした
- ・事前学習について、日程の回数はよいが、1日に費やす時間が長いと思う
- ・学外の機関だからこそできることであると思いました
- ・社会人基礎力を身に付ける講座から最後のまとめまで充実したプログラムであった
- ・それぞれのプログラムでそれぞれの「学び」や「気づき」を共有できて、良かった。自身の「気づき」を大切にしたい。
- ・自分発見、能力把握という自分が期待していなかった部分での成長があつて良かった
- ・期待していた部分と、そうでない部分、どちらもありましたが、どちらにも「学び」があり、自身の成長につながった
- ・プロジェクトとして、協力して社会の問題に向き合う、また解決できなったとしても、その過程にも価値があるということに気づかされた。
- ・動画の編集や社会人との関わり方、コミュニケーション能力など様々なことを学び、成長につなげることができたので、とても満足だ。
- ・良い経験ができたが、相性の関係でつらい場面が多かった
- ・自らが期待していたものとは少し違ったが、自分を高めることにつながった。
- ・長期の特徴であるPBLの成果よりも課題解決能力があつたと思うので、満足している
- ・このインターンシップが、私にとって初めての本格的なインターンシップでしたが、働くということや将来どんなスタイルで働いていきたいかのビジョンが見えたので、とても有意義な経験になった。
- ・個人的にグループの人とうまくコミュニケーションを取れなかつたため、この結果となりました。

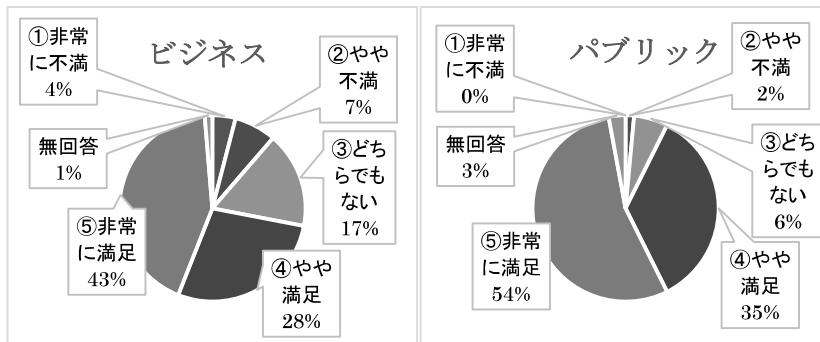
●事務局について



- ・面接日にインフルエンザになったにも関わらず、別日に面接日を設けていただき、ありがとうございました
- ・9日間しかなかつたこと、休みのことも丁寧に対応してくださいって、良かったです
- ・突然、ゼミ生が、自己紹介しに行ったのにも関わらず、明るく接していただいて、うれしかつたです

- ・あまり事務局の方と直接関わった記憶がございませんが、おそらく裏での仕事が非常に多いんだろうなと思います
- ・事前レポートの相談に真摯に乗ってくれて、優しく対応してくれたので良かったです
- ・インターンシップの内容をもっと詳細に教えていただきたかったです。（実習内容、プログラム、講座日程、補講の有無）一度でも休むとダメになることは知らなかつたので。他のインターンがあることを考慮していただきたかったです
- ・私が実際に経験したわけでも、見たわけでもないため強くは言えないですが、体調不良の人への対応について聞いた限りでは、一側面で見るとパワーハラスメントに値するのではないかと思いました（失礼を言って申し訳ありません）
- ・1回生の方の件は、少し思う所がありましたが、スタッフの方の対応は親切でした。
- ・大学から出された事前課題をなくされたことがあったが、丁寧に対応して下さってありがたかったです
あの対応が良かった
- ・インターン中の訪問でも気を使っていただけた部分が感じ取れました
- ・このプログラムに参加するか迷ったとき、とても丁寧に対応して下さって、この人たちがサポートしてくれるなら、ぜひ参加したいと思いました 実習前に海外にいて、台風の影響で飛行機が飛ぶかわからなくて実習に参加できるか不安だったのですが、事務局の方が丁寧に対応してください、安心したことを覚えています
- ・面接のときの対応が冷たすぎるし、無理矢理、実習先を決められた
- ・コンソーシアム　—　学校　—　受入先の連携が実習中に本当にできていたのか
- ・すごく丁寧で優しく、インターンで知り合った後は、事後学習の時話しかけてくれた。
- ・インスタのやり方をもっと若者の声をちゃんと聞いて考えた方が良いと思います
- ・インスタがかりに対してのプレッシャーがすごかった やることが多かった
- ・優しい方が多く、接していただけてうれしかった ゼひ来年はサポートの立場として頑張りたい
- ・プログラムがどのようなものか教えてください、ありがとうございました（説明会に行けなかったことで事務局を訪れた時）
- ・レポートの提出日について、授業後に提出できるようにしてほしい
- ・レポート提出を、9:00から受け付けて欲しかったです
- ・様々な大学の学生が受講しているので、レポートの提出期間は1週間くらい設けるべきだと思います。
- ・イレギュラーにも対応していただけて助かった ちなみに他の自治体と違い京都府庁はなぜコンソのみに限定してインターンをしているのか？京都以外の大学生が参加しづらいと思う 講義も多く中々負担だった
- ・育児のプログラムの勧誘がしつこかった
- ・仕事と育児の両立プログラムを進めていただき、行って良かったです

●コーディネーターについて



(長期プロジェクトは質問なし)

- ・グループ活動が多く、自分たちに自由にさせてもらった。そのおかげで、積極的に取り組めることができた
- ・先生が初めの空気を作ってくれたからこそ、クラス全員と会話ができました。先生でこんなにも空気が変わるだと思いました。ありがとうございました
- ・おもしろく、寛大に私たち生徒を指導してくださいました。先生のおかげでこんなにもクラスが良い雰囲気だったと思います。最後に実習日誌を見てのメッセージなど、何か欲しいなと思いました
- ・メリハリがあって、ゼミでの活動も楽しくできた
- ・親身に相談に乗ってくださり、いろいろなお話を聞かせていただいた
- ・先生の幅広い知識と見解を学ばせていただき、とてもありがとうございました
- ・一つひとつ実習先に中間指導に行って思うと、かなり大変だったと思います。丁寧な指導をありがとうございました
- ・ゼミクラスでの学習のときに、時間が過ぎているのにも関わらず、続けていたことがあった。事前学習レポートに関する報告をゼミのクラスで行ったときに、レポートのアドバイスが書式の話ばかりで、もっと内容に関してのアドバイスが欲しかった
- ・いろいろな意見があると思いますが、実習先で先生を見たときはすごく安心しました
- ・コーディネーターによってやり方に差がありすぎる
- ・レポートの書き方について、丁寧に見てくださいました。クラスの実習質問事項を決めて、仮設設定があり楽しかったです
- ・とても明るく学生思いの人。中間指導で実習生3人の緊張を和らげてくれた
- ・クラスをまとめて頂き、チームワークができたのは、コーディネーターの先生のお陰だと思う
- ・もう少しグループワークをしたかったです。(個人ワークが多かったので)でも、発表やプレゼン力を高めることができたと思います
- ・話し合いの課題がいつもふんわりしていて“コレ”という話し合いが難しかったので、そこを変えて欲しいです
- ・実習中、つらく、嫌なことがあればいつでも連絡してくれていいと実習前に言われていたので、連絡することはなかったですが、本当に頼りがいがありました
- ・事前レポートや企業訪問の際に親身になって動いてくださった
- ・自分の大学の先生ではなかったところが良かった
- ・私の場合、コーディネーターが自大学の教員だったため、あまり緊張せずに授業に取り組めた。人見

知りの自分にとってはありがたかった

- ・コメントやアドバイスなどたくさんいただき、とても良かった。相談などがしやすかった
- ・事前学習レポートの添削など、様々な部分でサポートしてくださり、感謝しています
- ・親切で丁寧な指導をしてくださり、充実したインターンシッププログラムになった
- ・個性的な人で、発表のアドバイスを的確にしてもらい、自分の為になった。楽しくできた。
- ・コーディネーターの方々は、ご自分が受け持つ学生の実習先や実習内容についてどの程度ご存知なのでしょうか？
- ・レポートについてのアドバイスもなく、発表も特に意見を出していただくこともなかったにも関わらず、補講があり、困惑しました。（学生間で都合の合うときに集まるので良かったかと思います）関係のない業界の話をされて、学びがあったとは言えません（仕方がないですが）
- ・話を簡潔に話すことが必要という割には、先生本人が話を簡潔に話していないので、とても時間がもったいないなと感じた
- ・申し訳ありませんが、不満しかありません。話が長く、何を伝えたいかわかりません。また、事前レポートでもコーディネーターの方に渡しても読んでいるように見られず、私が「個人ずつ意見がいただけるのか」おたずねして、「する」と言ったにも関わらず、何もいただけませんでした。時間は十分にあったにも関わらず、長ったらしい話に使われたので、時間がもったいなかったです
- ・プロジェクトを進めるにあたって、コーディネーターのサポートは必要不可欠だったので、サポートが充実していたのは、とても良かった。
- ・コーディネーターの先生のうまい助けで乗り越えられたので、良かった。

第5章 今後の課題

1. インターンシップ巡る現状

財団によるインターンシップ・プログラムは、1998年度から20年にはわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとして充実を図ってきた。近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開しているが、企業・団体による採用を目的としたワンデイ型のインターンシップの増加が顕著となっている。その影響もあり、財団が大学と連携して教育プログラムに必要な内容として実施している「事前・事後学習」4日+「実習」10日以上のビジネス・パブリックコース、約5ヶ月にわたる講義と実習で構成された長期プロジェクトコースへの学生参加と受入協力の企業・団体が大きく減少している。

一方で、学生が十分な職業意識の形成ができるいないまま進路・就職先選択を行うことは、就職後の早期離職につながることもあり、行政や企業関係者からは、京都地域の中堅中小企業における厳しい新卒採用状況の改善につながるような企業・団体、業界への関心を高めるインターンシップのあり方や、受入れ企業・団体においても自社の人材育成や成長につながるよう、インターンシップへ関わることの必要性などの意見が出ている状況である。

このように財団プログラムへの期待が高まる中、学生がより自身の職業観を深め、その中で京都にある企業・団体等への関心をさらに高めること、受入先企業・団体の組織課題や人材育成などに資することを含めたプログラムの改善を進め、京都地域全体での人材育成と社会活性化を促進する仕組みにしていくことが必要となってきている。

2. 財団プログラムの現状

財団インターンシップ・プログラムの改善の狙いについては、学生を対象とした教育プログラムとしての質的向上と併せて、実施先における組織的な課題の対応や人材育成及び学生の企業・団体、業界への関心向上に資することを目的に実施している。

ワンデイ型（短期）インターンの定着、インターンの選択肢の増加や就活スケジュールの変化等により、従来の3回生を中心とした学生の参加から、低年次生に向けて「教育プログラム」の意義を理解し参加を促すような働きかけをプログラム・ガイダンスの開催や加盟大学のキャリアセンター、コーディネーターと共に押し進めている。2019年度の低回生の参加は全体の25%まで増加している。

長期プロジェクトコースはプログラムの特長を活かす目的で、以下改善をしている。

- ・名称をプログレスコースから長期プロジェクトコースに変更（名称による内容の明確化）
- ・講義時間の変更（学生への講義開始時間の考慮）
- ・写真・映像を使用してプロジェクトの記録やプレゼンテーションを行う方法を学び活用
- ・プロジェクト活動のポートフォリオ化（プロジェクト記録紙の充実）
- ・講義内容の見直し（講義の担当コーディネーター制）

継続した課題としては、加盟大学が実施するインターンシップ・プログラムの今後の方向性の調査と連携のあり方、優れた実習プログラムを実施する受入先企業・団体と大学との接点の拡大、修了生（OB・OG）との連絡体制の継続的な構築と現役学生への教育支援、新たなインターンシップ・プログラムを展開するための調査研究、メディアを活用したインターンシップ・プログラムの活動広報の促進などが挙げられる。引き続きの検討が必要である。

資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について

1) コース別 出願者数と登録団体数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	254	155	146	163	85	52.1%
パブリック		70	68	36	20	55.6%
プログレス	25	25	25	13	8	61.5%
合計	279	250	239	212	113	53.3%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	4	1.4%	4	1.6%	100.0%
2年次(回生)	73	26.2%	65	26.0%	89.0%
3年次(回生)	196	70.3%	177	70.8%	90.3%
4年次(回生)	2	0.7%	1	0.4%	50.0%
5年次以上(回生)	0	0.0%	0	0.0%	0.0%
大学院生	4	1.4%	3	1.2%	75.0%
合計	279	100.0%	250	100.0%	89.6%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	96	34.4%	81	32.4%	84.4%
女性	183	65.6%	169	67.6%	92.3%
合計	279	100.0%	250	100.0%	89.6%

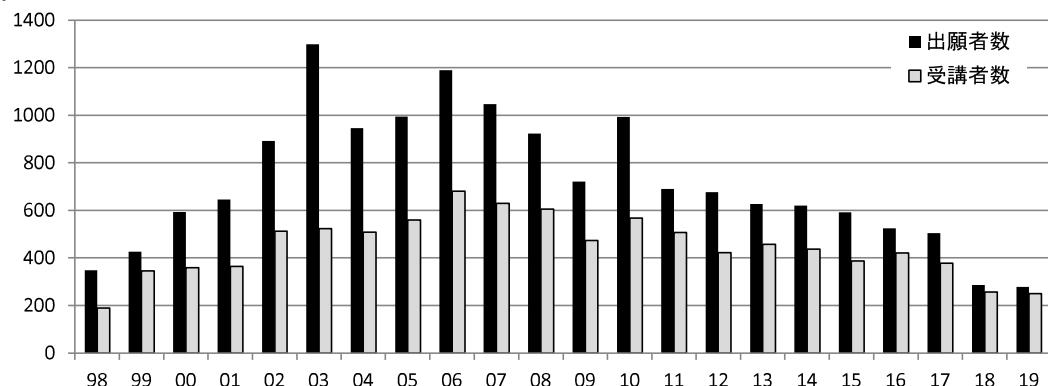
4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数	実習許可者数		大学名	出願者数	実習許可者数
加盟大学	京都大学※大学院生含む	3	3	加盟大学	京都美術工芸大学	1	1
	京都教育大学	1	1		京都文教大学	18	18
	京都工芸繊維大学	1	1		京都文教短期大学	0	0
	京都市立芸術大学	0	0		京都薬科大学	0	0
	京都府立大学	6	4		種智院大学	0	0
	京都府立医科大学	0	0		成安造形大学	4	4
	福知山公立大学	2	2		同志社大学	30	26
	池坊短期大学	0	0		同志社女子大学	7	7
	大谷大学	13	13		花園大学	3	3
	大谷大学短期大学部	0	0		佛教大学	6	6
	京都医療科学大学	0	0		平安女学院大学	1	1
	京都外国語大学	1	1		平安女学院大学短期大学部	0	0
	京都外国語短期大学	0	0		明治国際医療大学	0	0
	京都先端科学大学	13	10		立命館大学※大学院生含む	10	10
	京都華頂大学	0	0		龍谷大学	66	55
	華頂短期大学	0	0		龍谷大学短期大学部	0	0
	京都看護大学	0	0		大阪医科大学	0	0
	京都経済短期大学	0	0		京都情報大学院大学	0	0
	京都光華女子大学	14	12		放送大学 京都学習センター	0	0
非加盟大学	京都光華女子大学短期大学部	0	0	非加盟大学	大阪大学	2	2
	嵯峨美術大学	0	0		滋賀大学	1	0
	嵯峨美術短期大学	0	0		関西大学	0	0
	京都産業大学	20	18		奈良県立大学	1	1
	京都女子大学	43	40		四天王寺大学	0	0
	京都精華大学	0	0		滋賀県立大学	0	0
	京都西山短期大学	0	0		追手門学院大学	0	0
	京都造形芸術大学	1	1		舞鶴工業高等専門学校	0	0
	京都橘大学	6	5		出願総数	279	250
	京都ノートルダム女子大学	5	5				

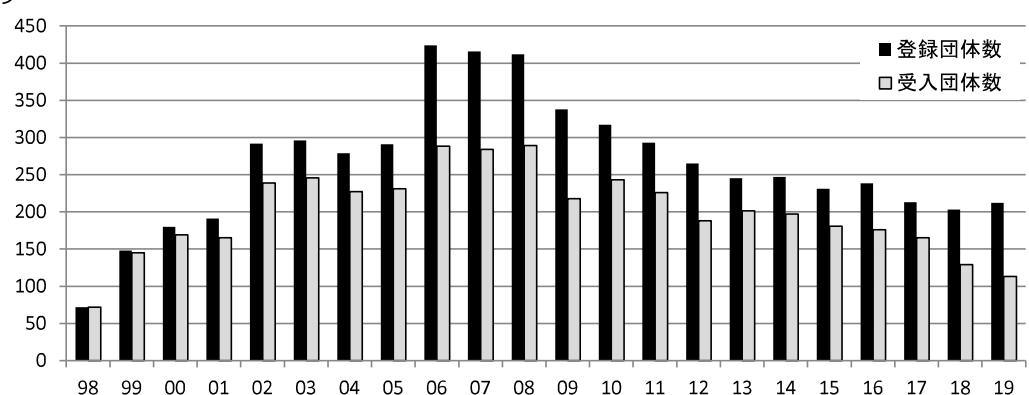
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24

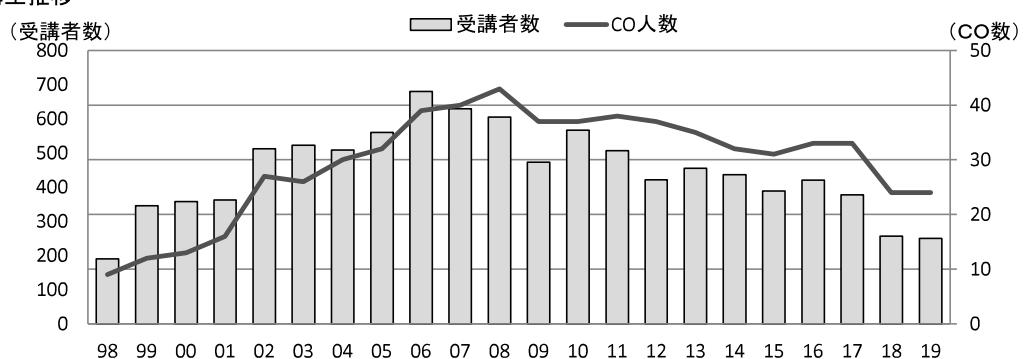
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講生推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

<p>ビジネスコース・パブリックコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ■エンタテイメント 株式会社ビーイング ■ブライダル 株式会社エイジエイクリエーション ■コンサルティング・調査・研究 しあわせ総合研究所グループ 株式会社地域計画建築研究所 株式会社地域社会研究所 株式会社地域未来研究所 ■宿泊・レストラン・フードサービス ウェスティン都ホテル京都 京都タワー (京阪ホテルズ＆リゾーツ株式会社) 株式会社国華荘 びわ湖花街道 里湯昔話 雄山荘 株式会社ハトヤ瑞鳳閣 柊家株式会社 琵琶湖ホテル (京阪ホテルズ＆リゾーツ株式会社) 株式会社フクナガ 株式会社八千代 ■マスコミ・広告・印刷・出版 アートム株式会社 株式会社あおぞら印刷 株式会社関広 特定非営利活動法人京都コミュニティ放送 株式会社京都通信社 有限会社ティーエスピー 公益財団法人南丹市情報センター 株式会社ビードリーム びわ湖放送株式会社 宮川印刷株式会社 株式会社らくたび ■安全・メンテナンス・清掃 株式会社アイアム 京都エレベータ株式会社 株式会社ワタナベ美装 ■運輸・物流 嵯峨野観光鉄道株式会社 株式会社塚腰運送 西日本ジェイアールバス株式会社 	<p>■医療・福祉 公益社団法人 京都市身体障害児者父母の会連合会 社会福祉法人行風会 社会福祉法人 十条龍谷会 社会福祉法人清和園 京都市久世特別養護老人ホーム 医療法人社団 千春会 武田病院グループ 福祉介護部 社会福祉法人同胞会 同胞の家 一般財団法人長岡記念財団 老人保健施設 アゼリアガーデン パナソニック エイジフリー株式会社 洛和会ヘルスケアシステム 社会福祉法人和楽会 特別養護老人ホームわらく</p> <p>■金融・証券・保険 株式会社葵総合保険 株式会社エスアールエム SMBC日興証券株式会社 京都信用金庫 京都中央信用金庫 西村証券株式会社</p> <p>■人材ビジネス 株式会社OVO 学生情報センターグループ 株式会社ナジック・アイ・サポート</p> <p>■士業(法律・会計事務所) 特許業務法人京都国際特許事務所 京都税理士法人 JFD司法書士法人 京都事務所 弁護士法人中村利雄法律事務所</p> <p>■不動産・建築設計 株式会社エルハウジング 京都駅ビル開発株式会社 株式会社空間デザイン 株式会社クレバー 有限会社一級建築士事務所 ターボ設計 株式会社長栄 株式会社莫設計同人 株式会社フラットエージェンシー 株式会社ユニバーサル建設 株式会社ロイヤル住建 株式会社ローバー都市建築事務所</p>	<p>■製造(アパレル・織維) 岡山工芸株式会社 ダイイチ株式会社</p> <p>■製造(建設) 株式会社インテリアホソイ</p> <p>■製造(食品) 株式会社石田老舗 株式会社茨木屋 亀屋良長株式会社 株式会社聖護院ハッ橋総本店 株式会社西利</p> <p>■製造(電気機械設備) 株式会社カシフジ 金井重要工業株式会社 寺崎電気産業株式会社 パナソニックシステムソリューションズ ジャパン株式会社 関西社 株式会社壬生電機製作所 由利ホール株式会社 和晃技研株式会社</p> <p>■製造(半導体・精密機器) 株式会社ゲートジャパン 株式会社魁半導体 株式会社積進 株式会社大東技研 株式会社富永製作所</p> <p>■製造(その他) 株式会社加賀ローラ製作所 株式会社クロスエフェクト 株式会社ShinSei 株式会社セイワ工業 株式会社傳來工房 日東精工株式会社 マルホ発條工業株式会社 ムラタ 株式会社箭木木工所</p> <p>■ソフトウェア・通信 インフォニック株式会社 株式会社教育ソフトウェア 協和テクノロジーズ株式会社 株式会社クラックスシステム 大和電設工業株式会社 株式会社ブリッジコーポレーション</p>
--	--	---

■小売・販売・専門店
株式会社川勝總本家
株式会社京織 京都さがの館
京都生活協同組合
株式会社くろちく倭美坐
生活協同組合コープしが
つるやゴルフ
株式会社ハートフレンド
(総合食品スーパー「フレスコ」)
株式会社花工房
富士ゼロックス京都株式会社
有限会社豊明 京都デニム
株式会社丸善ジュンク堂書店 京都店
丸善雄松堂株式会社京都支店
株式会社 よーじや
株式会社レスキュージャパン

■商社・卸売
京都三友青果株式会社
株式会社佐野
三共精機株式会社
株式会社大黒商会
ノーブルトレーダース株式会社
株式会社ヒトミ
ワタキューセイモア株式会社

■教育(学校・大学等)
大谷大学・大谷大学短期大学部
京都外国語大学 京都外国語短期大学
国立大学法人京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学 京都国際マンガミュージアム
京都先端科学大学
京都大学
京都文教大学
京都薬科大学
社会福祉法人熊千代会 こぐま上野保育園
社会福祉法人熊千代会 こぐま白雲北保育園
社会福祉法人熊千代会 こぐま保育園
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
同志社女子大学
同志社大学

■非営利団体<NPO・NGO>
特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター
特定非営利活動法人気候ネットワーク
特定非営利活動法人 京都藝術交流協会
一般財団法人京都ユースホステル協会
公益財団法人 公害地域再生センター
(あおぞら財団)

特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ21
特定非営利活動法人ピープルアクティブライフ
認定NPO法人びわこ豊穣の郷

■レジャー・アミューズメント
株式会社エルムンドラベル
オーパルオブテックス株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
株式会社ピックスマイル
有限会社丸益西村屋
Y'sスポーツガーデン パデル京都

■その他
京都工業株式会社
公益財団法人京都市スポーツ協会
京都新聞企画事業株式会社
(京都新聞旅行センター)
サンスイコンサルタント株式会社
株式会社ジイケイ京都
株式会社JTB 京都支店
株式会社ディレクターズ・ユニバ
有限会社テラヲ貨物店
株式会社富田屋
西陣織会館
日本PCサービス株式会社
株式会社乃村工藝社
株式会社花駒
ぴあびあコミュニケーションサポート合同会社
公益財団法人びわ湖芸術文化財団
株式会社プラスワン
株式会社ミル総本社
株式会社ユメコム

■官公庁
綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
一般財団法人 大阪教育文化振興財団
亀岡市役所
川西町役場
京田辺市
京都市
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設 花背山の家
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
京都府庁
滋賀県庁
摂津市
豊中市伊丹市クリーンランド
長岡京市役所
東近江市役所
彦根市
文化庁地域文化創生本部
宮津市役所
向日市役所
守山市役所
野洲市役所
栗東市役所
京都府立るり渓少年自然の家

長期プロジェクトコース

スポーツコミュニケーションKYOTO株式会社
(京都ハンナリーズ)
株式会社ユメコム
株式会社ディアライブ
京都府教育委員会
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
株式会社ウエダ本社
株式会社ワイングロッサリー¹
株式会社山城工芸
関西卷取箔工業株式会社
特定非営利活動法人気候ネットワーク
特定非営利活動法人木野環境
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
株式会社インサイトハウス

資料4. 長期プロジェクトコース講義概要

全体の流れ	回数	日程	時間	講義名	講義形式	内容	会場	
プロジェクトの導入	第1講	6/13 (木)	18:30～ 19:30	オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント） プロジェクトの形成（目標の提示）	全受講生 合同	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え、リスクマネジメントについて、活動報告・プロジェクト・プレゼンテーションでの発表の方法などの説明を受ける。 各プロジェクトに分かれ、自己紹介及び受入先から目標の提示を受ける。	キャンパス プラザ 京都	
	第2講		19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (プロジェクト概要の発表)		各プロジェクトのプロジェクト概要を発表し、共有する。その後、受入先や教員からアドバイスを受ける。		
	受入先事前訪問期間：6月14日（金）～6月19日（水）の間に実習先を訪問するなどし、プロジェクトについて指導、アドバイスを受ける。（プロジェクトにより設ける）							
	第3講	6/20 (木)	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (PCMの講義・ワークシートの進め方について)	全受講生 合同	PCM講義でプロジェクト・マネジメントの概要を学び、ワークシート記入・使用についての指導を受ける。	キャンバス プラザ 京都	
	第4講		19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (ワークシート①)		ワークシート①<プロジェクトの目標の明確化>を完成させる。		
	第5講	6/27 (木)	18:30～ 20:00	プレゼンテーショントレーニング (映像コンテンツの活用法)	全受講生 合同	映像を使用したプレゼンテーションのポイントや方法等についての指導を受ける。	キャンバス プラザ 京都	
	第6講		20:10～ 21:10	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師による講習を受ける。		
	第7講	7/4 (木)	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (ワークシート②)	各プロ ジェクト	ワークシート②<プロジェクトの成果と活動の明確化>を完成させる。	キャンバス プラザ 京都	
	第8講		19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (ワークシート③)		ワークシート③<活動計画表>を完成させる。		
	第9講	7/11 (木)	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)	全受講生 合同	プロジェクト活動計画表の発表。他プロジェクトの受講生との意見交換を行い、プロジェクト活動の完成度を高める。	キャンバス プラザ 京都	
	第10講		19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)				
夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。								
プロジェクト実施期間	第11講	9/5 (木)	16:50～ 18:20	サマーセッション プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動中間報告)	全受講生 合同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇中間時点での進捗状況を報告しあい、質問や感想を交換する。	キャンバス プラザ 京都	
	第12講		18:30～ 20:00					
	第13講		20:10～ 21:10					
	夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。							
	第14講	10/3 (木)	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動最終報告)	全受講生 合同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況を報告しあい、質問や感想を交換する。	キャンバス プラザ 京都	
	第15講		19:40～ 21:10					
	第16講	10/10 (木)	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要)	全受講生 合同	プロジェクト評価の方法を学び、プロジェクト・プレゼンテーションにつなげる。ワークシート④<プロジェクトの評価>を完成させる。	キャンバス プラザ 京都	
	第17講		19:40～ 21:10					
	第18講	10/24 (木)	18:30～ 19:30					
	第19講		19:40～ 21:10					
プロジェクト振り返り・報告・評価	第20講	11/9 (土)	10:40～ 12:10	プロジェクト・マネジメント (自己評価：プログラム受講を通して自己の変化を振り返る) プロジェクト・プレゼンテーション修了式 18:00～ 19:00 懇親会	全受講生 合同	プロジェクト・プレゼンテーションにむけたプレゼンテーション準備を行う。	キャンバス プラザ 京都	
	第21講		13:00～ 14:30			プログラム受講を通しての、自己の変化を振り返る。		
	第22講		14:40～ 15:40			約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告を行う。全体で、それぞれのプロジェクトの到達点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らかにする。		
	第23講		15:50～ 17:50					
						受入先・コーディネーター・実習生の交流を深める。		

●会場は、すべてキャンパスプラザ京都になります。

●上記日程以外でもプロジェクトにより活動が実施される場合がありますので、ご注意ください。

●7月、8月、9月の毎週少なくとも1回は受入先または実習現場での活動を行います。

●7月18日（木）と10月31日（木）は、講義が休講となった時の補講日です。

●学習レポートおよびプロジェクト報告書 提出期間：11月14日（木）15:00～19:00

資料5. 長期プロジェクトコースプロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講生数 (実習許可)	コーディネーター
京都府教育委員会	【教員養成サポートセミナー】 学校現場において、試行錯誤しながら児童・生徒と教師という立場で向き合った。演習を通して理論と実践を結びつけ、教員になるために必要な実践的指導力を身に付けた。	3	○谷口 知弘 (福知山公立大学)
特定非営利活動法人 木野環境	【企業向け環境教育ツールの制作】 ごみ分別に関する環境教育ツールとして、ごみ処理施設に関する「処分場カード」をデザインし発行することをメインとした活動を行った。予算・スケジュール管理、情報収集、見学、撮影、制作物のデザインなど多くの工程を経て完成させた。	3	坂本 清彦 (龍谷大学)
公益財団法人 大学コンソーシアム 京都	【映像で魅せるISプログラム】 大学コンソーシアム京都の長期プロジェクトコースを学生へ広報するためのプロモーションビデオを作成した。各プロジェクトの活動を取り材し、インタビューや動画の撮影を行い、ビデオに編集する中で社会人基礎力を鍛えていった。	3	池側 隆之 (京都工芸繊維大学)
株式会社 インサイトハウス	【やまなさんプロジェクト】 ポータルサイトの運営(取材・記事の作成・管理・提供先の開拓など)、地域イベントへの参加、地域向けイベントの企画運営などの活動をとおして山科地域の魅力を発信した。最後に活動をまとめたフリーペーパーを編集し発行した。	2	西村 雅信 (京都工芸繊維大学)
株式会社 ワインクロッサー	【学生向けワインセミナー 企画、開催】 ワインショップの仕事を通じてワインを学びながら、学生向けワインセミナーの内容を組み立て、セミナーの企画・実行をするプロジェクト。社員のサポートの元、セミナーの企画、集客、開催を全て行った。	3	申 昌浩 (京都精華大学)
株式会社ディアライブ	【京都のインバウンド観光情報メディア改修・新規事業計画】 Traveler's Voice of Kyotoの中の、トリップアドバイスの知名度をアップできるようにSNSを活用し広報すると同時に、日本語と英語による記事を投稿した。記事投稿は、実習生が取材、撮影、執筆まで学生目線でのコンテンツを作成した。	3	吉田 咲子 (京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部)
関西巻取箔工業 株式会社	【MADE IN JAPANのものづくりを世界に発信プロジェクト】 「ものづくり」のすごい技術や面白い製品など、世に知られていない魅力を学生のアイディアで広報するプロジェクト。企業の展示会やソーシャルメディアでの広報を動画を使って企画した。	4	西村 雅信 (京都工芸繊維大学)
株式会社 ウエダ本社	【企業と学生のマッチングイベント開催に向けた企画・運営】 大手紹介ナビなどでは紹介されることが少ないが、京都の優れた企業を対象に学生への会社紹介や会社訪問ツアーを企画、実施するプロジェクト。イベントに向けて、企業の選定・企画の立案・企画・参加学生集客などの準備、イベントの運営、イベント終了後には振り返りまでを行った。	4	○桜沢 隆哉 (京都女子大学)

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要

日程	時間	コマ数	講義名	講義形式	内容	
6/15 (土)	10:00～11:00	第1講	オリエンテーション①：プログラム参加にあたって リスクマネジメント講習①：事前学習に向けての心構え	ゼミ 全受講生 合同	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明します。	
	11:20～12:50	第2講	クラスの相互理解		クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をします。	
	13:50～15:20	第3講	実習に向けた目標と仮説設定		グループディスカッションを中心として、実習目標と仮説設定のための意見交換を行います。	
	15:30～16:30	第4講	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。	
	16:40～18:10	第5講				
受入先事前訪問期間：原則6月17日(月)～7月5日(金)の間に実習先を訪問し、実習内容・期間の確認や、事前学習レポート作成に向けてアドバイス等の指導を受けます。						
6/29 (土)	10:00～11:30 (90)	第6講	業界と社会に対する学習①	ゼミ	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。	
	11:40～12:40 (60)	第7講	業界と社会に対する学習②			
	13:40～15:10 (90)	第8講	スキルアップトレーニング		ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。	
	15:20～16:50 (90)	第9講				
7/6 (土)	10:00～11:30 (90)	第10講	実習に向けた目標と仮説設定①	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目的を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。	
	12:30～14:00 (90)	第11講	実習に向けた目標と仮説設定②			
	14:10～15:40 (90)	第12講	実習に向けた目標と仮説設定③		事前学習レポートの内容をより深めます。	
	16:00～17:30 (90)	第13講	リスクマネジメント講習②：実習・事後学習に向けての心構え オリエンテーション②：実習・事後学習に向けての事務連絡	全受講生 合同	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。 実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。	
実習の実施（原則として8月1日～9月20日の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）						
9/14 (土)	9:00～10:30 (90)	補講日	※クラスによって実施される場合があります			
	10:50～12:20 (90)					
9/21 (土)	10:00～11:00 (60)	第14講	実習経験の共有①	ゼミ	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。	
	11:10～12:10 (60)	第15講	実習経験の共有②			
	13:10～14:40 (90)	第16講	実習経験の共有③		実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。	
	15:00～16:30 (90)	第17講	実習経験交流会	ゼミ合同	実習を通して学んだことをゼミごとに発表し、他のゼミの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。	
	16:40～17:40 (60)	第18講	実習経験の振り返り／全体講評／修了式		他のゼミからのコメントから各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。	

資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講生数	氏名	大学	所属等
ビジネス	不動産・建築設計	B1	13	東 正志	京都文教大学	総合社会学部
	金融・証券・保険	B2	15	桜沢 隆哉	京都女子大学	法学部
	コンサルティング・調査・研究 ソフトウェア・通信 土業(法律・会計事務所) 人材ビジネス	B3	13	山田 廣己	京都産業大学	大学院法務・法学研究科
	ソフトウェア・通信 マスコミ・広告・印刷・出版 その他	B4	11	伊原 千晶	京都先端科学大学	人文学部心理学科
	運輸・物流 その他	B5	12	濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	エンタテイメント レジャー・アミューズメント その他	B6	10	岸 基史	同志社大学	経済学部
	教育(学校・大学等)	B7	14	岸岡 洋介	京都外国语大学	外国语学部
	医療・福祉 教育(学校・大学等)	B8	13	江口 聰	京都女子大学	現代社会学部
	商社・卸売 小売・販売・専門店	B9	14	◎多田 実	同志社大学	政策学部
	製造(アパレル・繊維、製造、半導体・精密機器、食品、電気機械設備、その他)	B10	13	○三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	ブライダル 宿泊・レストラン・フードサービス	B11	13	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	キャリア形成学部
	安全・メンテナンス・清掃 小売・販売・専門店	B12	14	平尾 肇	京都橘大学	現代ビジネス学部
パブリック	官公庁(地方公共団体) 非営利組織(NPO・NGO)	P1	10	秋吉 恵	立命館大学	共通教育推進機構
	官公庁(地方公共団体)	P2	15	◎古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	官公庁(地方公共団体)	P3	15	山本 貴子	大谷大学	文学部
	官公庁(地方公共団体)	P4	15	○松村 千鶴	京都府立大学	教養教育センター
	官公庁(地方公共団体)	P5	15	黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関する「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関する「有能感」、自らの社会における立場をわきまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1. 実施日

ビジネスコース・パブリックコース
長期プロジェクトコース

2019年6月15日(土)／2019年9月21日(土)
2019年6月13日(木)／2019年11月9日(土)

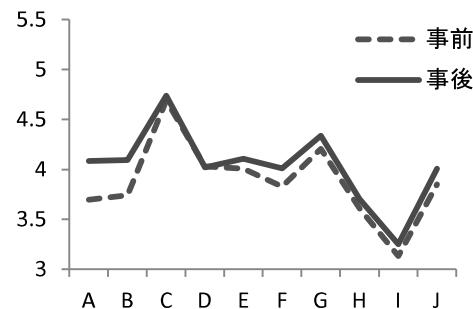
2. 回答数

	実習許可者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	155	223	99.1%	218	96.9%
パブリックコース	70				
長期プロジェクトコース	25	25	100.0%	24	96.0%
合 計	250	248	99.2%	242	96.8%

表-2. 意識調査結果(比較)

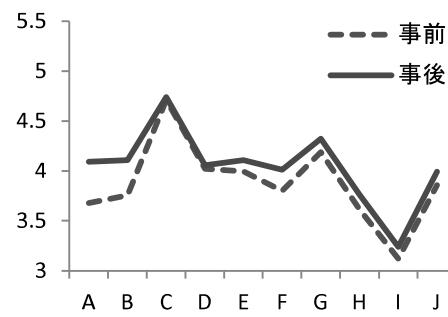
<全体>

全体的に長期間のプロジェクトを実行する長期プロジェクトコースでの変化が大きい結果となったが、両コースともに「就職レディネス」に関する項目の変化が大きく、インターンシップに参加することで社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



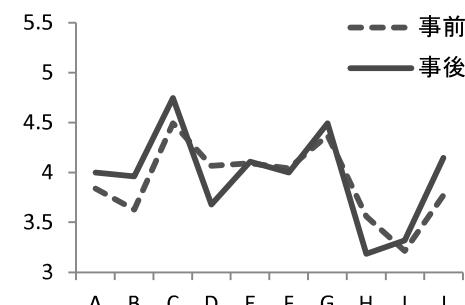
<ビジネスコース・パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。「就職レディネス」の項目の変化が大きく、実際の仕事の体験を通した社会人との関わりが大きな変化をもたらしていると考えられる。



<長期プロジェクトコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。「就職レディネス」の項目に関する変化、及び「自己主体性」に関する項目の中での「自己理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果

表-1. 意識調査の指標と平均点

		実習前	実習後				全体
			ビジネス・パブリック	长期プロジェクト	全体	ビジネス・パブリック	
A	職場の人間関係への理解	職場の人間関係の難しさをある程度知っている。 仕事上の優れたリーダーシップのある方が分かる。	4.16	4.28	4.17	4.48	4.16
B	組織で働くことへの理解	職業人としての礼儀、作法を心得ている。 上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。	3.54	3.68	3.64	3.94	4.09
C	学生と社会人の区別	組織がどのように運営されているのかある程度わかる。 働くことがどういうことが知っている。	3.34	3.60	3.55	3.70	3.86
D	ジェンダー問題への気づき	学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。 定職に就かずフリーターとしてやつていくことはいやだ。	4.11	3.92	4.09	4.39	4.09
E	実行力	組織がどのように運営されているのかある程度わかる。 働くことがどういうことが知っている。	3.82	3.75	3.63	3.79	3.86
F	環境適応力	学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。 定職に就かずフリーターとしてやつしていくことはいやだ。	3.34	3.36	3.34	3.34	3.40
G	柔軟な物事の見方	社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今社会では、女性が働き続けるいくことは大変である。	4.84	4.72	4.49	4.69	4.74
H	生活規律	社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今社会では、女性が働き続けるいくことは大変である。	4.07	4.71	4.00	4.44	4.74
I	社会へのコミット感	社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今社会では、女性が働き続けるいくことは大変である。	5.22	4.76	5.18	5.04	4.96
J	自己主体性	社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今社会では、女性が働き続けるいくことは大変である。	3.61	3.36	3.58	3.93	3.72
		やるべきことを実際、行動に移せる。 やるべきことを最後までやり遂げることができる。	4.51	4.02	4.68	4.07	4.06
		与えられた仕事を上手くこなす自信がある。	3.96	4.16	3.98	3.90	3.44
		異なる状況や環境にうまく適応できる方だ。 いろいろな困難に耐えうる精神力がある。	3.96	4.20	3.98	4.13	4.16
		人間関係を通して学ぶすべを知っている。	3.96	4.00	4.09	4.47	4.01
		広い視野で物事を見るようになっている。	3.76	4.00	3.78	4.00	3.92
		いろんな角度から考えて、動くようにしている。	3.96	3.80	3.92	4.04	4.07
		人それぞれの個性を認めることができます。	3.69	4.20	3.74	3.97	4.12
		今、規則正しい生活を送っている。	3.99	4.16	4.00	4.18	4.40
		毎日休まず働くことができると思う。	3.88	4.19	4.20	4.37	4.32
		取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	4.70	4.76	4.70	4.71	4.84
		自分は社会にどうて必要な人間だと思う。	3.68	3.52	3.67	3.65	3.08
		いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。	3.91	3.62	3.68	3.56	3.76
		社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。	3.25	3.48	3.27	3.74	3.60
		自分に欠けている部分をきちんと把握している。	3.38	3.32	3.37	3.42	3.44
		自分の興味・関心について人に説明できる。	2.45	3.12	2.88	3.21	2.47
		自分の進むべき道を十分に認識している。	3.54	3.44	3.53	3.83	3.92

2019年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2019年12月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

<http://www.consortium.or.jp>
